

今後のがん対策に関し重要と考える視点や課題

～ 協議会委員の主な御意見 ～

【大きな方向性に関する御意見】

**積極的治療を終了した患者、働きながら治療を行う患者など、
全ての患者が尊厳をもった生き方を選択できる社会の構築**

- ・社会全体でがんと向き合う視点
- ・がんになっても自分の希望する生き方を選択できる社会
- ・自らの価値観に基づく判断を行うための苦痛の解除
- ・個々国民による自覚を促すための教育の提供、情報支援体制の確保 など

【具体・個別の施策に関する御意見】

○がん患者・家族の希望にそった療養を実現するための医療連携の確保

- ・地域における緩和ケアを含めた医療介護福祉連携体制の構築
- ・がんケアに強い訪問看護ステーションなど専門職による在宅がん医療の提供
- ・緩和ケアセンターの院外機能の強化、拡大
- ・病院から在宅までを一貫して支援するサポーターケア・プログラムの開発・普及
- ・治療初期の段階からのかかりつけ医併診体制の普及 など

【具体・個別の施策に関する御意見】

○自らの価値観に基づく判断を可能とするためのがん教育、情報支援体制の確保

- ・行政、医療、産業、教育、がんサバイバーが協力したがん教育実施体制の構築
- ・「健康教育」の一環として、「いのちの授業」の一環としての普及
- ・がん教育の目標設定と進捗評価について
- ・地域包括支援センターやNPO法人等の連携による医療機関外の相談支援機能の強化など

○高齢者の尊厳を確保したがん医療の普及

- ・認知症等、他の合併症があるがん患者に対する治療エビデンスの構築
- ・治療に伴うQOLへの影響に関する研究の推進
- ・患者のエビデンスへのアクセスの確保 など

○小児がん及びAYA(Adolescent and Young Adult)世代のがん対策の推進

- ・小児科医と成人専門医との連携など長期フォローアップ体制の確保
- ・教育現場における小児がんに関する知識の普及 など

○働き盛り世代の患者の社会参加を促すための就労対策の推進

- ・働きながら治療できる環境の整備
- ・多様な働き方を容認し、がん患者の社会貢献を促す仕組みの構築
- ・がん患者の社会参加を促すため、後遺症を軽減する治療法等の開発 など

【具体・個別の施策に関する御意見】

○質の高いがん医療を確保するための専門家の育成・確保

- ・がん医療に専門的に携わる医療従事者の育成と確保
- ・がん専門医などががんプロフェSSIONAL認定制度の確立による教育
- ・がん患者の主治医となる若手医師に対する緩和ケア研修の推進
- ・緩和ケアに関する医学教育での位置づけ、初期臨床研修での位置づけ など

○がん検診等の「予防・早期発見」のさらなる推進

- ・僻地等における検診提供体制の整備
- ・障がい者が受けやすい侵襲の少ない検診手法の開発
- ・20代女性等の若い世代が受診しやすい環境整備 など

○患者に届く成果を確実に上げるためのがん研究推進体制の確保

- ・がん研究(有識者会議報告書)の重要性に関する社会・国民への周知
- ・がん研究の進捗管理、評価体制の構築 など

○実効性のあるがん対策推進体制の確保

- ・基本計画に関する精度の高いPDCAサイクルの確保
- ・各都道府県等における好事例の共有など横展開の仕組みの構築
- ・都道府県計画等、各取組に関する情報共有と各協議会への支援体制の確立
- ・がん登録のさらなる充実による質の高いデータに基づく施策の実施 など